

放送日： 平成 20 年 11 月 17 日

タイトル： 心臓に対する新しい検査方法としての高性能 X 線スキャンについて

担当者： 医師 高山 智行

今回は心臓に対する新しい検査法として高性能の X 線 CT スキャンについてのことを話させていただきます。

胸が苦しい、胸が痛い、胸がしめられるという症状がある、または症状はなくても糖尿病がある場合や心電図異常がある場合にも狭心症という心臓の血管の病気がある可能性があります。心臓自体は心筋と言われる筋肉で出来ており、この心筋に血液をおくり栄養補給を行なっている血管を冠動脈と呼びます。

狭心症は、冠動脈が生活習慣や老化によりコレステロールや中性脂肪が血管内に溜まる事が原因で、動脈硬化がおこり血管が詰まり、血流が心臓の組織に行き渡らない血流傷害の状態を言います。狭心症が原因となって、心筋梗塞に進行し、最悪の場合は死亡する恐れのある恐ろしい病気で、発症した場合は、緊急な処置が必要とされ、一刻の猶予も許されません。よって、そのような症状がある場合には病院にて検査をする必要があります。採血、心電図やレントゲン、心臓超音波、運動負荷心電図などにて検査を行います。それにて病気があるのが確実な時には、心臓カテーテル検査という、直接血管に細い管をいれて血管を調べる検査を行うことで病状を調べる必要があります。

しかし、なかには症状や心電図等の簡単な検査では狭心症という病気があるかどうか迷う場合があります。以前はその場合でも心臓カテーテル検査をしなければ分からないため、やむなくカテーテル検査を受けたが異常がない人や逆に検査が怖いので検査を行わず病気が悪化する人がいました。しかし、今年より甲賀病院に導入された最新鋭の CT スキャンを行うことで狭心症の可能性のある人に対して心臓の血管の状態を調べることが可能になりました。CT スキャンというのは X 線コンピューター断層撮影の略で X 線をあらゆる方向から当てることにより体内部の情報がみえる、さまざまな病気で不可欠な検査です。

しかし、以前は、心臓においては、常に心臓が動いているために CT では心臓の血管は調べることができませんでした。ところが最新鋭の 64 列 CT は高速で撮影できるためほとんどの人に対して心臓の血管をきれいに抽出できます。造影剤を点滴してレントゲンをとる感覚なので体に対する負担も少なく、検査は 20 分程度で終了します。それにて問題がなければ、カテーテル検査は必要ありませんし、もし心臓の血管が非常に細いことが分かればカテーテルで血管を広げる治療も早期に行えることにもなります。

ただ、造影剤によるアレルギーがある方や腎臓が悪い人は原則行えません。また、不整脈がひどい人や検査中に息を 15 秒ほど止められない人には血管が十分見えない場合もあります。以上のような制限も少しありますが、以前ではカテーテルを体に入れないと見えなかった心臓の血管が CT を受けることで、安全にかなり精密に評価できるようになったことは画期的なことですので、胸の症状があるかたは、気軽に病院で相談してください。